



たけ じょ

# 武女に関する資料一覧

〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

ここでは『<sup>かのえねみち</sup>庚子道の記<sup>き</sup>※』の作者である武女に関する資料（戸田市立図書館で内容確認済の資料）を紹介します。 ※本によって「こうしみちのき」と読む場合もあります。

武女についての調べ案内は、「[武女について調べるには](#)」のページをご覧ください。

## 目次

1『庚子道の記』が収録されている資料	4武女の和歌が収録されている資料
2『庚子道の記』の一部が収録されている資料	5武女が掲載されている人物事典類
3『庚子道の記』の解釈が紹介されている資料	6武女及び作品について知ることができる資料

## 1 『庚子道の記』が収録されている資料

●武女の作品である『庚子道の記』が収録されている資料は以下のとおりです。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『庚子道の記』	清水浜臣	1807		埼玉県立図書館デジタルライブラリー
	<p>19丁</p> <p>文化4年(1807)、<sup>しみずはまおみ</sup>清水浜臣によって刊行された『庚子道の記』の原本です。江戸時代の国学者<sup>むらたはるみ</sup>村田春海、<sup>たちばなちかげ</sup>橘千陰の序文、清水浜臣の注記及び<sup>はつ</sup>跋文(後書き)が収録されています。</p> <p>アドレス: <a href="https://www.lib.pref.saitama.jp/stolib/doc/data/d_conts/kicho/syosai/021.html">https://www.lib.pref.saitama.jp/stolib/doc/data/d_conts/kicho/syosai/021.html</a></p>			
『珍書百種』第1巻	春陽堂	1894		国立国会図書館インターネット公開資料
	<p>p.1-17「庚子道の記」</p> <p>『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文及び跋文も収録されています。</p> <p>アドレス: <a href="http://dlndl.go.jp/infoindljp/pid/871943">http://dlndl.go.jp/infoindljp/pid/871943</a></p>			
『道の記集』巻1	中村積徳堂	1898		国立国会図書館デジタルコレクション
	<p>p.119-141「庚子道の記」</p> <p>『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文、注記及び跋文はありません。</p>			
『紀行文集』続	博文館	1909		国立国会図書館デジタルコレクション
	<p>p.457-468「庚子道の記」</p> <p>『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文、注記及び跋文はありません。</p>			
『婦人文庫』第4回	婦人文庫刊行会	1914		国立国会図書館デジタルコレクション
	<p>p.3-26「庚子道の記」</p> <p>『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文、注記及び跋文も収録されています。</p>			

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
みそのや 『三十輯』第3	国書刊行会	1917		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.273-282 「庚子道の記」 享和3年(1803)、狂歌師の大田南畝が編さんした文学作品集(写本)を活字化して出版したものです。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/945831">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/945831</a>			
『女流文学全集』 第3巻	文芸書院	1919		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.205-215 「庚子道の記」 『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文、注記及び跋文はありません。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/957684">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/957684</a>			
『日記紀行集』	有朋堂書店	1922		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.313-334 「庚子道の記」 『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文、注記及び跋文も収録されています。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/971909">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/971909</a>			
『歴朝国文学選』 近世随筆篇	立川書店	1929		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.180-189 「庚子道の記」 『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文及び跋文はありません。清水浜臣が付けた注記はありませんが、編者(鈴木敏也)が付けた頭注があります。			
しらびょうし 『白拍子武女 道の記』	彩文堂	1939		国立国会図書館デジタルコレクション
	27p 尾崎本※を活字化して収録。冒頭に竹越与三郎(明治～昭和時代の政治家)「女性文学界に於ける武女の地位」を掲載しています。本文の後には江戸時代の国学者横井也有(尾張藩士、江戸時代の国学者)の奥書が付いています。 ※尾崎本とは、尾崎久弥(大正・昭和時代の国文学者)が所持していた横井也有所有の写本の写しのことです。			
『庚子道の記』 謄写版	徳川林政史研究所	1961	T915.5	本館2階・戸田市関連資料
	49p 尾張家の子孫徳川義親が発行したもの。複数の写本を照合校訂し、原本に近い形の『庚子道の記』を掲載しています。各写本の奥書も紹介しています。			
『江戸時代 女流文学全集』3	日本図書センター	1979	-	埼玉県立久喜図書館
	p.205-215 「庚子道の記」 大正8年(1919)刊『女流文学全集』の複製。『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文、注記及び跋文はありません。			
『新日本古典 文学大系』68 近世歌文集 下	岩波書店	1997	918	本館1階・開架閲覧室
	p.83-106 「庚子道の記」 『庚子道の記』(清水本)を活字化して収録。序文及び跋文はありません。清水浜臣の注記はありませんが、校訂者(中村博保)が付けた脚注があります。			
『名古屋叢書』 第14巻 文学編 校訂復刻	愛知県郷土資料刊行会	1982	T081.2	本館2階・戸田市関連資料
	p.321-344 「底本庚子道の記(白拍子武女)」 昭和36年(1961)刊の複製。『庚子道の記』(尾崎本)を活字化して収録。奥書及び添書きあり。清水本の序文、跋文及び注記も掲載。本文前に作品解題及び武女の経歴についての論者が添えられています。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続が必要です。

## 2 『庚子道の記』の一部が紹介されている資料

●『庚子道の記』の一部が紹介されている資料は以下のとおりです。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『紀行文集』	経済雑誌社	1894		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.144-151 「庚子道之記」 冒頭（名古屋）から浜松までを抜粋して紹介しています。			
しょうふうぎんげつ 『松風吟月』	文学同志会	1899		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.146-151 「庚子道の記」 冒頭（名古屋）から浜松までを抜粋して紹介しています。			
ばきん 『馬琴旅行文集』	文学同志会	1903		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.9-23 「東海道一（庚子道の記）」 冒頭（名古屋）から六日目の三島神社 <sup>みしま</sup> までを抜粋し、解説も加えて紹介しています。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/888928">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/888928</a>			
まんゆうひっけい 『漫遊必携紀行文粹』続	春陽堂	1910		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.130-133 「潮見坂 <sup>しおみざか</sup> の眺望（庚子道の記）」 旅の初日、三河と尾張の国境から二日目の潮見坂 <sup>みかわ</sup> 付近に至るまでを抜粋して紹介しています。			
みかわ 『三河文献集成』 近世編上	国書刊行会	1980		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.442-443 「庚子道の記（抄）」 旅の初日、三河と尾張の国境から二日目の潮見坂付近に至るまでを抜粋して紹介しています。			
うんすいばんり 『雲水万里』	明昇堂	1900		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.42-45 「遠江 <sup>とのおとうみ</sup> の海原 <sup>うなばら</sup> 」 二日目の潮見坂から新居 <sup>あらい</sup> を舟で渡った所までを抜粋して紹介しています。			
『箱根春秋』	明治書院	1966		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.264-266 「武女の庚子道の記」 六日目、箱根山に入った所から七日目の箱根を抜けた所までを抜粋して紹介しています。			
『箱根山』	至誠堂	1912		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.180-183 「庚子道の記の一節」 六日目、箱根山に入った所から七日目の箱根を抜けた所までを抜粋して紹介しています。			
はくれんしらぎく 『白蓮白菊』	太平洋文学社	1900		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.38-41 「箱根の関」 六日目、箱根山に入った所から七日目の箱根を抜けた所までを抜粋して紹介しています。			
『新撰女子文範』	内外出版協会	1905		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.96-101 「道のなかば」 四日目、三保 <sup>みほ</sup> の松原から最後までを抜粋して紹介しています。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。

### 3 『庚子道の記』の解釈が紹介されている資料

●『庚子道の記』の解釈及び訳文が紹介されている資料は以下のとおりです。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『庚子道の記講義』	福音社	1903		国立国会図書館インターネット公開資料
	29p 著者（伊藤兼興 <sup>のりおき</sup> ）の現代語訳（1903年当時）が掲載されています。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/888909">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/888909</a>			
しんせい 『新星』 かみいずみいせのかみひでつな 上和泉伊勢守秀綱	東方社	1956		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.211-226「白拍子武女」 著者（中山義秀 <sup>ぎしゅう</sup> ）の意識及び解説が掲載されています。			
『郷土とだ』第6号	戸田市文化財研究会	1995	T709.1	本館2階・戸田市関連資料
	p.1-29 篠崎健次「庚子道の記」 著者の現代語訳及び解説が掲載されています。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手续が必要です。

### 4 武女の和歌が収録されている資料

●武女は、『庚子道の記』以外に和歌を一首残していることが確認されています。その和歌が紹介されている資料は以下のとおりです。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
こっかたいかん 『新編国歌大観』 第6巻-2	角川書店	1988	R911.1	本館2階・参考資料室
	p.815「霞関集 巻第一 春歌 64」 歌題「夜梅」詠み人「武子 尾州女房」で一首、武女の和歌が掲載されています。『霞関集』は、石野広道 <sup>いしのひろみち</sup> が寛政1年（1789）に編さんし成立した和歌集です。			
『霞関集』	古典文庫	1982	-	国立国会図書館
	p.16-17「巻第一 春歌 64」 歌題「夜梅」詠み人「武子 尾州女房」で一首、武女の和歌が掲載されています。			
せんぞう 『森銑三著作集』第7巻	中央公論社	1989	081.6	本館2階・一般書
	p.237「大野廣城とその筆禍」内 大野廣城（1788-1841）が残した未刊の書『東国風流』 <sup>あすまのくにぶり</sup> （和歌集）の中に、武女の和歌が収録されていると書いてあります。「霞関集」収録の和歌と同じものです。			
『東国風流』	(写本)	-		国立国会図書館・古典籍資料室
	ページ表記無 武女の和歌が収録されている『東国風流』（大野廣城直筆本）をマイクロフィルムで見ることができます。8コマ目に武女の和歌が載っています。国立国会図書館・古典籍資料室で閲覧できます。複写申込可			

## 5 武女が掲載されている人物事典類

●武女について掲載している人物事典及び各種事典は以下のとおりです。

### ① 尾張家四代藩主徳川吉通<sup>とくがわよしみち</sup>の夫人である輔姫<sup>すけ</sup>に仕えたとする説

◆武女の経歴には二説あります。  
その一つである「輔姫に仕えた人物」説のみを掲載している事典を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『人物逸話辞典』下巻	東京堂出版	1963	T281.0	本館2階・戸田市関連資料
	p.24「武女」 武女について概略を知ることができます。『庚子道の記』徳川義親本の巻末で紹介している中山和清の「婦女伝略」を参考文献としています。			
『埼玉人物事典』	埼玉県	1998	T281.3	本館2階・郷土資料架
	p.501「武女」 武女及び作品の概要を知ることができます。参考文献の記載はありません。			

### ② 尾張家七代藩主徳川宗春<sup>むねはる</sup>の侍女とする説

◆二説ある武女の経歴の内、「徳川宗春の侍女」説のみを掲載している事典を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『近世 女流書道名家史伝』	市川義郎	1935		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.47-48「白拍子武女」 近世の女流書道名家の伝記集。武女の略歴を掲載しています。参考文献の記載はありません。			
『女流著作解題』	女子学習院	1939		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.129「武女」 『近世女流書道名家史伝』及び『名古屋文学史』を参考文献にして、武女の略歴を掲載しています。 アドレス： <a href="http://dlndl.go.jp/info/ndljp/pid/1878891">http://dlndl.go.jp/info/ndljp/pid/1878891</a>			
『書画骨董人名大辞典』	金園社	1975	R703.3	本館2階・参考資料室
	p.316「武子」 武女の略歴を掲載しています。参考文献の記載はありません。			
『類従伝記大日本史』 第15巻	雄山閣	1981	281.08	本館2階・一般書
	p.297「武女」 武女の略歴を掲載しています。参考文献の明記はありません。 ただし、武女を特定できるキーワード（庚子道の記、白拍子、ささめ等）がないことから別人の可能性も否定できません。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。

### ③ 武女の経歴二説を紹介している事典

◆「輔姫に仕えた人物」説「徳川宗春の侍女」説の両方を掲載している事典を紹介します。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日本人名大事典』4	平凡社	1979	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.86「武」 武女及び作品の概要を知ることができます。『名古屋市史』を参考文献としています。			
『大日本女性人名辞書』	新人物往来社	1980	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.329「武」 武女について概略を知ることができます。『柵草子』『女鑑』及び『庚子道の記』を参考文献としています。『柵草子』（「しがらみ草紙」30号）『女鑑』は当館未確認資料です。			
『日本女性人名辞典』	日本図書センター	1993	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.648-649「武女」 武女について概略を知ることができます。『近世文芸家資料総覧』『白拍子武女』（『伝記』6-8）「武女のこと」（『典籍』8）『日本人名大事典』『大日本女性人名辞書』及び『類聚伝記大日本史』を参考文献としています。『近世文芸家資料総覧』は当館未確認資料です。			
『国書人名辞典』第2巻	岩波書店	1995	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.612「鈴木武女」 武女について概略を知ることができます。『日本女性人名辞典』『女流著作解題』及び『人物逸話辞典』を参考文献としています。			
『江戸期おんな表現者事典』	現代書館	2015	R281.0	本館2階・参考資料室
	p.736-737「武女」 武女及び作品の概要を知ることができます。『女流文学全集』『日本女性人名辞典』及び『埼玉の女たち』を参考文献としています。			

## 6 武女及び作品について知ることができる資料

●武女及び作品について概要が分かる資料、関係論文、評論等は以下のとおりです。

### ① 戸田市関連資料

◆戸田市および関係各所が作成した資料は以下のとおりです。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』通史編上	戸田市	1986	T213.4	本館2階・戸田市関連資料
	p.1188-1191「武女と『庚子道の記』」 武女及び作品の概要を知ることができます。			
『戸田むかし史ある記』	戸田市教育委員会	1983	T213.4	本館2階・戸田市関連資料
	p.66「武女」 武女及び作品の概要を知ることができます。			

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田の歴史と文化』	戸田市秘書課・市史編さん室	1978	T213.4	本館 2 階・戸田市関連資料
	p.25 「武女道の記」 武女及び作品の概要を知ることができます。			
『戸田の文学探訪』	戸田市	1992	910.2	本館 1 階・とだしの本棚他
	p.34-35 「武女の庚子道の記」 / p.36-37 「江戸女流紀行文の白眉、武女」 武女及び作品の概要を知ることができます。			
『はろートライアングル』4号 (1～7号までの合本内)	田代デザイン事務所	1985	T051.9	本館 2 階・戸田市関連資料
	p.18-19 <sup>なかむらとくよし</sup> 中村徳吉 「武女道の記」 戸田周辺のタウン誌に寄稿されたものです。武女及び作品の概要を知ることができます。著者の武女評も紹介されています。			
『ささめ』	新生笹目 20 周年記念事業実行委員会	2003	213.4	本館 1 階・とだしの本棚他
	p.11 「郷土の先覚者 武女」 『戸田むかし史ある記』を引用した紹介文が掲載されています。			

## ② 埼玉県関係資料

◆埼玉県内で発行された図書及び逐次刊行物で紹介された関係資料は以下のとおりです。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『埼玉風景』 第 5 巻第 9 号	埼玉風景クラブ	1970	-	県立熊谷図書館(禁帯出)
	p.5-7 <sup>しこう</sup> 中村紫光 「武女のこと」 武女及び作品についての論文です。			
『埼玉史談』 第 22 巻第 2 号	埼玉県郷土文化会	1975	-	県立熊谷図書館(禁帯出)
	p.1-10 <sup>にらつかいちさぶろう</sup> 葺塚一三郎 「庚子道の記とその著者武女について」 武女及び作品についての論文です。			
『埼玉の女たち』	さきたま出版会	1985	T281.3	本館 2 階・戸田市関連資料
	p.95-101 葺塚一三郎 「『庚子道の記』の著者白拍子武女」 武女及び作品についての論文です。			
『埼玉県立 博物館紀要』12	埼玉県立博物館	1986	T069	本館 2 階・戸田市関連資料
	p.163-174 門山禮 「『庚子道の記』についての一試論」 武女及び作品についての論文です。			

### ③ 郷土資料以外の資料

◆戸田市及び埼玉県以外の資料で武女及び作品について掲載があるものは以下のとおりです。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『道の記集』巻1	中村正兵衛	1898		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.6「庚子道の記」 『庚子道の記』刊本の簡単な解題が掲載されています。			
しゅうえん 『萩園遺稿』	裳華房	1906		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.598-599 三浦千春 <sup>ちはる</sup> 「武女が紀行につきて」 幕末から明治時代の国学者三浦千春の遺稿集の中に収録されている随筆です。その中で武女と作品について触れている項目があります。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/871913">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/871913</a>			
『日本美人史』	尚友館	1906		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.159-160「武女と小柳」内 古くはクシナダヒメ、小野小町等日本史上美人とされている人物についてのエピソード集です。武女は尾張藩主徳川宗春に仕えた人物として取り上げられています。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/798976">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/798976</a>			
『愛知県歌人伝』	東京芸備社	1924		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.3-4「武女」 武女の略歴を紹介しています。			
『女流和歌抄』 しゅう	広文庫刊行会	1924		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.354-359 「武女」 『庚子道の記』の中の和歌を2首取り上げて解説しています。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/915221">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/915221</a>			
そうたい 『掃苔』 第3巻第7号	東京名墓顕彰会	1934		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.219-220 生駒鐘「尾張藩主に仕へたる女流文学者武女の墓」 三浦千春著『萩園遺稿』に掲載されている武女の墓とされる場所を訪ねた際の報告文です。			
『日本文学全史』8 江戸文学史 中巻	東京堂	1935	-	埼玉県立久喜図書館
	p.576-580「武女」 武女の略歴と作品について紹介しています。			
さん さしゅうひん 『三叉小品』	立命館出版部	1940		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.29-46「白拍子たけ女の道の記に就て」 『白拍子武女道の記』に寄稿した竹越与三郎の評論を再録したものです。 アドレス： <a href="http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1146297">http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1146297</a>			
『江戸時代の人々』	大東出版社	1942		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.48-53 森銑三「庚子道の記の著者」 武女の略歴と作品について紹介されている史料の検証を行っています。昭和14年（1939）に雑誌『伝記』6巻9号に発表した論文の転載です。			



書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日本紀行文芸史』	佃書房	1943		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.301-302「武女の紀行」 『庚子道の記』の解説が掲載されています。			
『典籍』第8冊	典籍同好会	1953		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.228-229 立石百合子「武女のこと」 様々な文献から武女の人物像を検証しています。			
『日本古典 文学大系』63 浮世風呂	岩波書店	1976	T913.5	本館2階・戸田市関連資料
	p.220「三編 女中湯之遺漏 巻之下」内 江戸時代後期の浮世絵師式亭三馬が書いた滑稽本「浮世風呂」の中に『庚子道の記』が登場しています。『庚子道の記』に対する当時の評判が分かります。			
『女人和歌大系』 第3巻	風間書房	1978	911.10	本館2階・一般書
	p.393-394「武女作品」 『庚子道の記』に収録されている和歌のみを紹介。簡単な作品解説が付いています。			
『名古屋市史』3 学芸編 (大正4年刊の復刻版)	愛知県郷土資料刊行会	1979	-	埼玉県立熊谷図書館
	p.106-107「文学-国文学(国学及び和歌)」内 武女の経歴を史料から読み解き紹介しています。			
『名古屋文学史』 (昭和7年刊の復刻版)	東海地方史学協会	1982	T910.2	本館2階・戸田市関連資料
	p.153-154「河村秀根父子と其の時代」内 武女の略歴と作品について紹介しています。			
かんきょうまんびつ 『感興漫筆』下ノ2 (『名古屋叢書』第22巻) (昭和37年刊の復刻版)	愛知県郷土資料刊行会	1983	-	埼玉県立熊谷図書館
	p.346「如泥老人「武女」考」 『感興漫筆』は、細野要斎(江戸時代後期の尾張藩士、儒学者)の雑録。「宗春の侍女」説は誤りで、「輔姫に仕えた」説が正しいと記されています。			
ひやくだい かかく 『百代の過客』下	朝日新聞社	1984	915	本館1階・開架閲覧室
	p.203-208「庚子道の記」 ドナルド・キーンが朝日新聞に連載していたコラムをまとめたものです。作品から武女の人物像を読み解いています。			
とうすい 『渡辺刀水集』1 (日本書誌学大系47-1)	青裳堂書店	1985	-	埼玉県立熊谷図書館
	p.304-307「白拍子武女」 昭和14年(1939)に雑誌『伝記』6巻8号に掲載された記事です。武女の経歴について『掃苔』掲載記事をもとに整理し検証しています。			
『日本随筆辞典』	東京書籍	1986	R914.5	本館2階・参考資料室
	p.93「庚子道の記」 解説と書誌情報が載っています。			
『近世の女 旅日記事典』	東京堂出版	2005	R915.5	本館2階・参考資料室
	p.183「三保の松原」/p.240「女人禁制」/p.314「平和な治世への感謝」 近世の女性の旅について述べたもので、『庚子道の記』の一部が使われています。			
『書く女たち』	学藝書林	2007	T910.2	本館2階・戸田市関連資料
	p.353-357「白拍子武女『庚子道の記』」 作品についての考察が掲載されています。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。